5ZA-06

個々の嗜好を加味した観光地推薦の提案
-温泉地を対象に-

佐久間 一浩† 植竹 朋文†
専修大学 経営学部†

＜研究動機＞

私は温泉へよく行く。温泉などの観光地に旅行に行く場合、最適な目的地を探すことはとても難しいことである。なぜならば、温泉地の数が非常に多く存在していて、自分の好みの温泉地がどこであるのかがよくわからないからである。そこで、個人の嗜好を反映した温泉地を推薦するシステムができないかと考えたのが、本研究の動機である。

＜研究対象・目的＞

本研究では、自分に合った温泉に行きたい人を対象に、個人の嗜好を加味した温泉地を推薦するシステムを提案することを目的とする。

＜現状分析＞

ここでは、観光希望者が温泉地に実際に行ってみて経験したギャップと温泉地を決定する際に重要度を占める嗜好を反映するシステムの現状を明らかにするために既存システム分析を行った。

▼実際の温泉地に対するギャップの分析

ここではまず、実際に温泉地に行った際に生じたギャップを分析するために、温泉に行く人、71 人(男 43 人、女 28 人)にアンケート調査を実施した（表 1）。

表 1　温泉地に行った際に生じたギャップ

質問	評価(5点満点)
想像以下だった	3.9
想像以下だった想像以上に良かった	4.3

この結果から多くの人は必ずしも自分の嗜好を正しく把握していないことが明らかになった。

▼既存システムの分析

次に、個人の嗜好に注目し、以下の 2 つの旅行サイトの機能について 13 人（男 8 人、女 5 人）に対してアンケート調査を行った。

表 2　既存サイトの分析

	有効性(5 点満点)
じゃらん	3,4
楽天トラベル	3.3

既存サイトの良い点としては、以下の点があることが明らかになった。

- 予算を大前提に考えている場合、検索が明快
- キャンペーンを掲載しているなど機能が多い

また改善点としては、以下の点があることも明らかになった。

- 自分の好みを反映した検索がしづらい

▼現状分析のまとめ

現状分析の結果、以下の点が明らかになった。

- 観光希望者は温泉地に対してギャップを感じた経験があり、自分の嗜好を正しく把握しているわけではない（表 1 より）
- 既存の旅行サイトは個人の嗜好がうまく反映できていない（表 2 より）

＜システム提案＞

現状分析を踏まえた上で、観光希望者の嗜好を加味した温泉地を推薦する、以下の機能を持ったシステム提案をする。

なお、本研究では個人の嗜好を以下の三つの項目で表現した。

- 旅行の目的（ゆったり⇔アクティブ）
- エリアの気温
- エリアの繁栄度

Proposal of destination recommendation system using users' preference

†Kazuhiro Sakuma, Tomofumi Uetake・School of Business Administration, Senshu University

Copyright ©2015 Information Processing Society of Japan.
All Rights Reserved.

① 嗜好の特定機能

ここでは入力された上記3項目を基に、利用者の嗜好を二つに分類して考える。

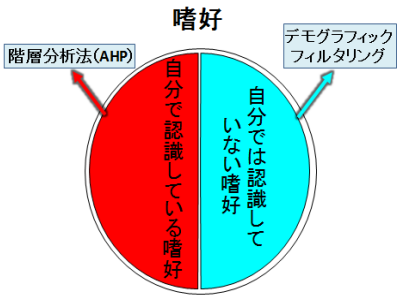

図1　嗜好の分類

1. 自分で認識している嗜好
   AHP(階層分析法)を用いて、嗜好の3項目の重みづけを行う
2. 自分では認識できていない嗜好
   AHP とデモグラフィックフィルタリングを用いて嗜好の 3 項目が類似している人を抽出（嗜好の 3 項目の差に重みづけをかけたものの和の最小値を求める）

② 温泉地エリアを特定機能

特定された嗜好を基に温泉エリア特徴 DB から、適合したエリアを抽出する。ここでは、温泉エリア特徴 DB を以下のように定義し、図 2 に示す抽出方法で温泉地エリアを特定する。

温泉エリアの特徴 DB：温泉のエリアごとに、目的適応度、エリアの気温と繁栄度といった項目を観光スポット数や、気温、該当エリアの人口といったデータをもとに 5 段階評価した DB を構築

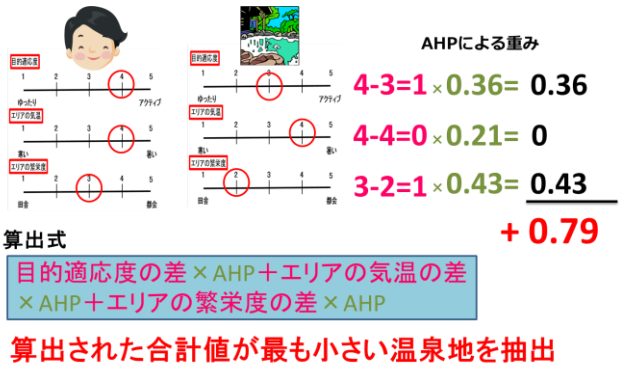

図2　嗜好にあった温泉地抽出方法

提案したシステムの概要を図3に示す。

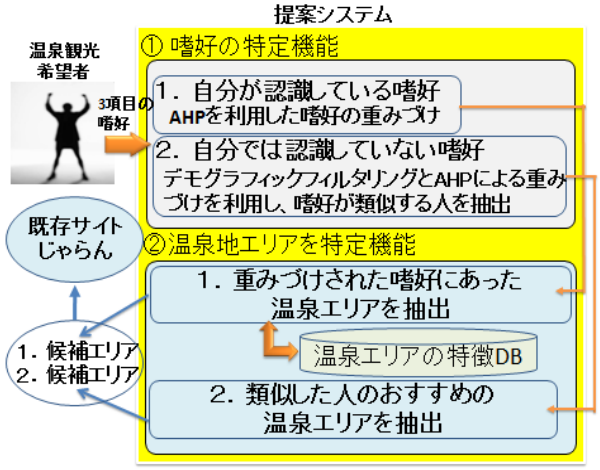

図3　提案システムの概要

＜効果検証＞

提案したシステムの有効性を検証するために、20 代の 57 人(男 33 人女 24 人)を対象に実際にシステムを利用してもらい、その評価をしてもらった。評価項目は以下の表 3 のとおりである。

表3　効果検証（5段階評価）

質問	評価(5点満点)
抽出された温泉地の妥当性はどうでしたか？	4.4
本システムの妥当性はどうでしたか？	4.5

検証の結果、観光希望者の嗜好に合った温泉地が提案されたことが明らかになった。

＜結論＞

提案するシステムを利用することで、個々が持つ嗜好を加味した温泉地を見つけることができ、観光希望者にとって満足度の高い温泉地観光を可能にすることができる。

＜今後の課題＞

今後の課題としては以下のものがあげられる。

- 温泉候補地の充実化
- 抽出した情報のインターフェースの検討

＜参考文献及び参考 URL＞

1. じゃらんネット
   http://www.jalan.net/
2. 楽天トラベル
   http://travel.rakuten.co.jp/
3. 高萩 栄一郎，中島 信之（2005），『EXCEL で学ぶ AHP 入門』，オーム社

Copyright ©2015 Information Processing Society of Japan.
All Rights Reserved.